

Title	女形の起原及完成の史的徑路について
Sub Title	
Author	櫻井, 秀(Sakurai, Shu)
Publisher	三田史学会
Publication year	1923
Jtitle	史学 Vol.2, No.3 (1923. 5) ,p.81(387)- 85(391)
JaLC DOI	
Abstract	女形の發達とその完成とば、近世演劇史上に於ける興味ある事實の一なるべし。されば夙に演劇史家によりて考究せられしものあるを知る。やりながら、少しく遡てかゝる藝術者の出現を見るまでの状態を説きしものなきが如し。故に管見の一部を述べて識者の教を請はんとす。
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19230500-0081">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19230500-0081</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 女形の起原及完成の史的徑路について

女形の發達とその完成とは、近世演劇史上に於ける興味ある事實の一なるべし。されば夙に演劇史家によりて考究せられしものあるを知る。さりながら、少しく遡てかゝる藝術家の出現を見るまでの状態を説きしものなきが如し。故に管見の一部を述べて識者の教を請はんとす。

## 一

斯道の先人は傳へていふ、「女形の風俗は京都よろしけれど、仕内は江戸へ下りて執行すべし……元祖瀬川菊之丞故瀬川菊次郎などにて察すべし」(1)と。

京都の地はその生活に訓練あるを以て自然に此種の効果を見しなるべく、また江戸に學ぶべしとせられし所以も想像に難からず。想ふに江戸の日

女形の起原及完成の史的徑路について (櫻井)

常に於て兩性の自然的風俗を觀察する便宜は京都よりも反て大なりし故ならむ。——武家本位の土地なる點より考へても、尙武主義或は儒教的感化等に基ける男女教養の相違著しかりしこと疑ふべからず。從て女性の特色を理會し得る機會もまた多かりしと信せらるればなり。——これに比するときは公家本位なりし京都の生活は、王朝式色彩の殘れること著しきものあり。男女の教養と表現とは一定の類似性を有し、その分離を要求せらるゝこと稀なりき。而して、かゝる變化の特質は、所謂「女形」なる一種の藝術家を産出するに適せしことも、また彼等の藝能を修むるに便ならざりしことも否定しがたきところならむ。

「女形」出現の前史としては、更に右の如き土地に發達せし若衆歌舞伎及躍子(2)をも看過するを

(三六)

八一

得ず。時人の彼等に對する耽溺は、その美しさに魅せられし爲めなるもの多く、技藝の翫賞に先ち、愛戀の情を以て演者の容姿を眺めたりしなり。此種の風潮は遠く關東にも及び、「滑稽詩文」(3)の一書を閲するも特に名聲ありし若衆の多くを知るべし。平野主馬助、田上左近、吉田長九郎、村山左近、同八十郎、熊田藤吉などみな藝名(?)なるべく、

山田長次少年十六、高岩

日夜思君兩鬢班 江東遙望暮雲間

人兼西子同其歲 翠黛紅顏二八山

○以下數十首省之、

いふところの山田長次は、實にその首位を占む。

かくて近世の終に至るまで、優秀なる子役、女形等に對しては、觀劇者の胸裡に特殊の感興の流るゝものありしを疑はず。即ち、藝術的翫賞欲の充足感と愛慕の情とは混融して彼等の心中を往來せしならむ。またその結果とも見らるべき傳奇的事實と、「美しきもの」の破綻に關する例證は、江戸時代を通じてこれを認め得べし。

註

(1) 役者全書上、

(2) 若衆歌舞伎については別に述ぶるの機會あらむ。躍子は鴨畔五條の地に本據を占め、汎れく世人より愛賞せられしこと明なり。鹿苑日錄等にその證多くみゆれど、今は一々あげず。同書慶長四年十一月七日條によれば、彼等は招聘者の住居に赴き宿泊することさへありしと見ゆ。

(3) 續類從九百八十一所收、

二

近世風俗の原流を究めんとするときは、多く遡て王朝の古に達すべし。彼の吉方詣などもその好例にして、平安朝に於ける歳事の一なりしを知らる。本編の説かんとする問題も、その Anlage は、室町以前に存し、予の所見にして妄ならずとすれば、平安朝を以て徵證し得べき最古の時代となすべし。女形の特色は男子にして婦人を假裝するにあり。而してその風習は平安朝の社會に於て類例の多くを認め得べし。左に二三の徵證を示さんに、  
今鏡すべらき下内宴は保元三年(1088)の内宴復興を傳へて

いはく、

も、とせあまりたえたる事を行はせ給ふ世に  
めてたし……舞姫十人綾綺殿にて袖ふるけし  
き、から女を見るこゝち也、ことしはにはか  
にて誠の女はかなはねば、童をぞ仁和寺の法  
親王奉り給ひける

これによりて見れば恐らく仁和寺の兒を女装せ  
しめしものならむ。此種の事實は敢てかゝる權宜  
の策に留らず、恒に行はれしものなりとす。また  
治承三年(1133)の賀茂祭に供奉せし近衛使附屬の  
小舎人は女なりしと傳へらる。山槐記 四月廿一日條 前例と  
は男女の地位を轉倒せりといへども、かく風俗上  
に於ける性の交換を行ひて恠しまざる慣習ありし  
は我等の留意を値すべし。

然らば當時何故にかくの如きこと多く行はれし  
か。これについての解釋は必しも唯一なるを要せ  
ず。諸因の相俟つて習俗をなせりと見るべきなら  
む。その一は風俗上の近似にして、特に少年期に  
於ける男女のそれは著しきものありしを知る。二  
は體質上の接近なりとす(1)。平安季世に於ける

女形の起原及完成の史的徑路について (櫻井)

男子の女性化は一般的傾向なりといふべし。殊に  
貴顯の家庭及各地の寺院にありし「兒」なるものは  
殆ど女性に類する状態なりしと考へらる(2)。さ  
れば保元の内宴に女装舞踊の選に充てられしも恠  
しむべきにあらず。また時人がそを賞美せしこと  
も不自然なりとすべからず。古今著聞集卷八にい  
はく

紫金臺寺御室に千手といふ御寵童有けり、み  
めよく心さま優也けり、笛をふき今様なとう  
たひ……又參河といふ童初て參にたりけり、  
箏ひき歌よみ侍りけり、是も又御寵有て千手  
……面目なしとて退出して久しく參らさりけ  
り、或日酒宴の事ありて……守覺法親王など  
も座におはしましたしけり、千手はなご候はぬや  
らん……と申させ給ひければ則御使……再三  
に及びければさのみは子細申がなくて參りに  
けり、げん紋紗の兩面の水干に……紫のすそ  
ごの袴きたり……思ひ入たるけしきあらはに  
てしめりかへりてぞ見えける。今様を歌ふこと  
みゆれど省く ……  
…御室はたへかねさせ給て千手をいたかせ給

て御寢所に御入有けり……其夜もあけぬ、御室御寢所を御覽じければ……御枕屏風にをしつけて有たりける

尋ぬべき君ならませばつけてまし

入ぬる山の名をはそれとも

……參河が手なりけり……高野に上りて法師になりにけるとかや聞えけり云々

本文に見えたる兩寵童の關係は、殆ど女性間のそれと均しきを知らる。これ等の例よりしても、上文の論旨が予の空想ならざるを察すべし。

註

(1) 別編參照 歴史地理第四十卷三號所收

(2) 他日改めて詳述すべし。

### 三

鎌倉以降は文化の内容に多くの新なるものを加へたりしかど、必しも舊文物の放棄を來さざりき。美しきものを愛するの情などは、京都系文化の普及せし地なる限り、多く前代と均しかりしを想ふ。兒衆の愛好せられしことも各地を通じその勢を加

へしものゝ如く、性の風俗的交換も座興として數々行はれたりしを見る。しかも此種の風習は反覆翫賞せらるゝ間に、微妙なる慣性を形成し、單に美女或は美男に對するそれとは異なりし或種の情趣を感せしむるに及びしならむ。これ明に女形を以て女優以外に存立し得べしとする思想の素地をなすものなり。當代に於ける男女風俗の交換については、女子の男裝と男子の女裝とを分ち得べし。而して兩者共に併び行はれたりき。左にその一二を指示せんとなす。

増鏡の著者は弘安三年(1790)の事實として傳へていはく、

ある時は御小弓いさせ給て御負わさには院のうちにはさふらふかきりの女房をみせさせ給へ  
と新院のたまひければ童の鞠蹴たるよしをつくりなして女房どもに水干させていたされたる事も待けり(老の波)

本文は前者の一例にして後者の例もまた少なからず。

花園院はその御記に於て近臣等の女裝して興を

盡くし、ことをあげ給へり。元享四年(1984)二月八日條に、

入夜院御方有吉比御勝負負態事、○中乘船一兩廻後、清雅隆有俊兼、兼高維成、季成等乗一船(人皆以女姿也)唱歌、○中後下船有盃酌事、清雅卿已下猶爲女裝束侯簾中、及比明之間更御乘船、及日出下御、男共猶學遊女

此種の風習は恐らく公武兩社會に涉り、また庶民の遊興などにも存せしなるべし。鎌倉幕府の營中に行はれし繪合の負態にも、遊女を童裝せしめしことみえたり(1)。室町幕府の世に至ては、公武風俗の交綜その度を加ふると共に、かゝる公家趣味の武人を風化せしこと殆ど疑なきに似たり。加ふるに少年愛憐の俗は當代に於て頂點に達せしものといふべく(2)、凋落期に入れる兒衆等は難染薰修その世を終ると、還俗するとを問はず、女性化せし成年男子として永く生存したりしならむ。しかも此種の人々の有する特殊の舉動と體質とは觀者の好奇心を惹くに餘ありしを想ふ。

註

女形の起原及完成の史的徑路について (櫻井)

(1) 吾妻鏡建曆二年十一月十四日條、  
(2) 尤草子上 うるはしき物の品々條に、わか衆、右筆、

俗人の文字有、連歌の宗匠詩歌の達者おなこのうたよみ云々といひ、若衆を首にあげたるを見るべし。また當代寺院關係の諸記録を閲せんには何人もその類證多きに驚くならむ。

(滑稽詩文)にも多くの戯作を載せたり。

現代一部の論者は女形を評して眞の女性ならざるが故に不自然なりとす。然れども、古人の彼等を賞美せし理由は婦人ならずしてしかも「より女性的」なる特色ありし爲めなりしを想ふ。換言すれば女形の歓迎せられしは女優によりて代償し得べからざる何等かの美點を認めたりしに基くならむ。そののみならず、史上に於ける女形の價值を今日に於ける女形によりて判定せんとする如きは、過去を正當に觀察し評價するの途にあらざるべし。更に女優の夙に發達せざりし理由を舊日本に於ける婦女の體質に歸せんとする所見に至ては恐らく史實に無知なる結果なりと信ず。

(大正十二、三、廿一)

櫻井秀